

EMT981 再生系の再構成(12)

－ハイドンを聴く(3)－

1. はじめに

前報(3)において EMT981 から TruPhase を経て 300B アンプまでのバランス伝送が実現した機会に、手持ちの CD を聴き直していくことにしました。今回も、しばらく聴いていないハイドンの作品を聴いていきます。

2. EMT981 の試聴方法

EMT981 の再生では、前報(7)と同様に前報(2)の再生ルートとします。

EMT981(*)→TruPhase→.300B

* : GPS-777 より CCD-6 経由でクロック入力

古い録音で定位などに違和感が感じられるときは TruPhase で位相を反転します。
再生する CD はハイドンのチェロ協奏曲です。

King International/SIMAX PSC1351

ハイドン チェロ協奏曲 1 番ハ長調

モーツァルト Sinfonia Concertante E flat Major

クレメンス・ハーゲン (チェロ)

Jan Bjorenger (Violin)

Lars Anders Tomter (Viola)

ERATO WPCS-13320

ハイドン チェロ協奏曲 1 番ハ長調

その他バロック協奏曲集

エドガー・モロー (チェロ)

リッカード・ミナージ指揮イル・ポ・モドーロ

3. EMT981 の試聴結果

上記 2 盤とも、演奏会に行って求めてきたものです。

クレメンス・ハーゲン盤のハイドンのチェロ協奏曲 1 番は、2016 年の録音で新しく、明晰ですっきりとした音で切れの良い演奏です。モーツァルトの協奏曲の方も、ヴァイオリンとヴィオラ双方とも艶のある切れ味の良い演奏です。

エドガー・モロー盤のハイドンのチェロ協奏曲 1 番は、2015 年発売で、録音が新しく、明晰な音で現代的でフレッシュな演奏が楽しめます。他にバロック時代のチェロ協奏曲が収録されていますが、これらの演奏もハイドンと同様の印象です。

4. まとめ

クロック入力した EMT981 からのバランス接続の効果で、二つの盤とも録音が新しく、明晰ですっきりとした音が楽しめます。

以上